令和6年度 やまがた社会貢献基金助成事業 活動報告書

団体名	子どもの自立を支援する会 SR会		
事業名	子どもの心の居場所づくりと子育て支援活動		
助成事業区分	協働助成事業【一般型】 自由提案部門		
団体の	酒田市	事業費	783, 364 円
所在市町村		うち助成金額	500,000 円
事業実施期間	令和6年5月29日~令和7年2月28日まで		

(事業目的)

酒田市では不登校や学校に行きづらさを感じている児童生徒が増えている。休日に開設されている子どもの居場所がないため学校が休みの日に子どもたちの居場所を開設する。事業目的の一つは学習支援と遊びを通して児童生徒のコミュニケーション能力と自己肯定感を高めることである。また、活動している時間帯に希望する子どもと保護者に不安を軽減するために個別相談を実施する。さらに、個別相談や子育てに関する講演会を実施することで、子育ての学習機会を増やし、保護者の子育ての悩みと不安を軽減、教師の子どもたちへの対応についての向上を図ることも目的としている。

(実施内容)

①庄内総合支庁子ども家庭支援課、県教育局庄内教育事務所と協働して企画を共に練って課題解 決にあたった。

- ② 子どもの心の居場所づくりは10回開設(毎月第2日曜日を基本とし13:30~16:30)
- 6/9 7/14 8/10 8/11 9/7 10/13 11/10 12/8 1/5 2/9 参加者69人 東北公益文科大生と 社会人ボランティア、SR会メンバーが学習支援とコミュニケーション能力を高める活動を行った。 同日希望する子どもと保護者には個別相談を実施(相談件数14件)
- ③ 子育て講演会と研修会は4回。9/7 9/21 12/22 1/19 参加者91名 講演会後には不登校・ 子どもとの関わり方や子育てについて、参加者が抱える悩みや不安などの意見交換を実施。
- ④ 文科省家庭教育支援チームとして国、県の重点課題への取り組み、2/18庄内総合支庁で庄内教育事務所社会教育課主催の研修会で、庄内地区の市町の社会教育担当者を対象に「こども・子育て支援」と題して子どもの居場所づくりの必要性と子育て講演会の意義についてプレゼン実施。
- ⑤LINEやメールによる個別相談はメール6件 電話1件であった。



図1 10/5不登校を知ろう 講師の先生4名とディスカッション



図2 10/13 子どもの心の居場所づくり そんとき 一座の皆さんと一緒

今後の展望

子音で講演会	•研修会(年4回)	講演会・研修会の総参加人数91人	内訳
			Y 1 H/

開催日	開催場所	講師(敬称略)	講演名	参加人数
7/27 →9/7 延期	酒田市総合 文化センター	佐藤成美	「アベルんち」からのメッセージと ワークショップ	10
9/21	酒田市総合 文化センター	伊藤なおみ	子どもたちは大人に何を求めているの か〜保健室での子どもたちとの関わり から見えてきた子どもたちの本音〜	18
対象外事 業 10/5	浜田コミュニティ 防災センター	鶴田淑子·佐藤 恵·他 2 名	「不登校について知ろう」経験者が語る パネルディスカッション	(16)
12/22	酒田市総合 文化センター	松﨑 学	小4の壁どう乗り越える?Zoom 開催	30
1/19	酒田市総合 文化センター	鶴田淑子他3名	不登校を知ろう	33
			合計	91 (107)

子どもの心の居場所づくりアンケートでは、

- ・保護者から、どこへも行きたがらなかった子が「次はいつ?」と聞くようになり活発になった
 ・ユビれたたから、始端れ傷しく、わかりやオく教々でくれるから嬉しい。初めてやる遊びれたく
- ・子どもたちから、勉強も優しく、わかりやすく教えてくれるから嬉しい、初めてやる遊びもたく さん経験できて楽しい 等聞かれた。

また、講演会・研修会後のアンケートでは、講演内容について大変良かった・良かったと回答された方が97.3%、講演会にまた参加したいかどうかでは97.9%の方が是非参加したい・参加したいと回答された。「小4の壁どう乗り越える?」では、

- ・子どもを信じて子どもが考えて決断したことを受け入れて話し合うことが大切だと思った
- ・子どもの主体性を尊重することは間違っていなかったことがわかり自信が持てた
- ・家庭と学校が同じスタンスで子どもの力を信じて自立支援を目指していける環境を整えたい
- ・30年後のいじめ、不登校が無い社会を目指したい
- 等の前向きな感想が聞かれ、

「不登校を知ろう」では

- 不登校の子どもたちの本当の気持ちを知ることができた
- ・講師の方たちの言葉が心に届いた
- ・学校は楽しい場であるべき。多様性も受容できる懐の広い学校にしていきたい

等反響があり、地区校長会で同様の研修会の開催へと繋ぐことができた。

- ① 子どもの心の居場所づくりは、子どもの将来のためにも継続が必要と考える。
- ② 年10回の居場所づくりの開設を年15回に増やす。
- ③ 保護者同士のつながりを促進する。
- ④ 子どもや保護者の地域での孤立を防止する。



団体概要

団体名 SR会

代表者 伊藤美智子

URL https://sr-kai.hatenablog.com/



図3 12/22 松﨑 学氏 小4の壁どう乗り越える?

令和6年度山形県NPO活動促進補助事業 収支精算書

事業の名称	子どもの心の居場所づくりと子育て支援活動
団体名	子どもの自立を支援する会 SR会

1 収入の部 (単位:円)

区分	精算額	内容
県補助金	500,000	令和 6 年度山形県NP0活動促進補助金
当該事業による収入	80,000	講演会資料代500円×91人 子どもの心の居場所づくり参加費500円×69人
その他収入	200, 157	民間助成金200,000円・ポイント157円
自己資金	3, 207	会費等
合計	783, 364	

2 支出の部 (単位:円)

区分	精算額	内容
謝金	160,000	謝礼25,000×4人 20,000円×3人
旅費		講師旅費、スタッフ交通費
印刷製本費	101, 720	リーフレット作成・チラシ・ポスター印刷用インク、用 紙
消耗品•材料購入費	32, 317	教材費(用紙・色鉛筆・折り紙等)衛生材料
通信運搬費	1,778	チラシ郵送
保険料	5, 040	子どもの心の居場所参加者保険
使用料	37, 730	会場使用料
人件費	140, 000	3,000円×43人 1,000円×1人 10,000円×1人
雑費	100	送金手数料
その他(対象外経費)	268, 479	講師謝礼11,000円人件費17,000円交通費7,000円 茶菓子・ プロバイダー通信費その他経費
合計	783, 364	